

第5節 将来の活動予測について

1 跡津川断層の活動区間と活動時の地震の規模

跡津川断層帯は断層帯全体が1つの活動区間として活動する場合、長さが約69～71kmと推定されることから、前述の経験式(1)を用いると、発生する地震の規模はマグニチュード7.9程度と推定される。また、過去の事例に基づく、その際には4.5～8 m程度の右横ずれが生じ、断層の北西側が相対的に2.5～3 m程度隆起する可能性がある。

2 被害想定

跡津川断層を内包する自治体である富山県と岐阜県では、それぞれにおいて策定した地域防災計画（富山県, 2006；岐阜県, 2004）の中で、同断層が大地震を発生させた場合の被害を想定し、具体的な震災対策に努めている。図1-18と表1-1、図1-19と表1-2に、富山県、岐阜県がそれぞれ想定した跡津川断層で大地震が発生した場合の震度分布、及びその地震に伴う被害について表した。

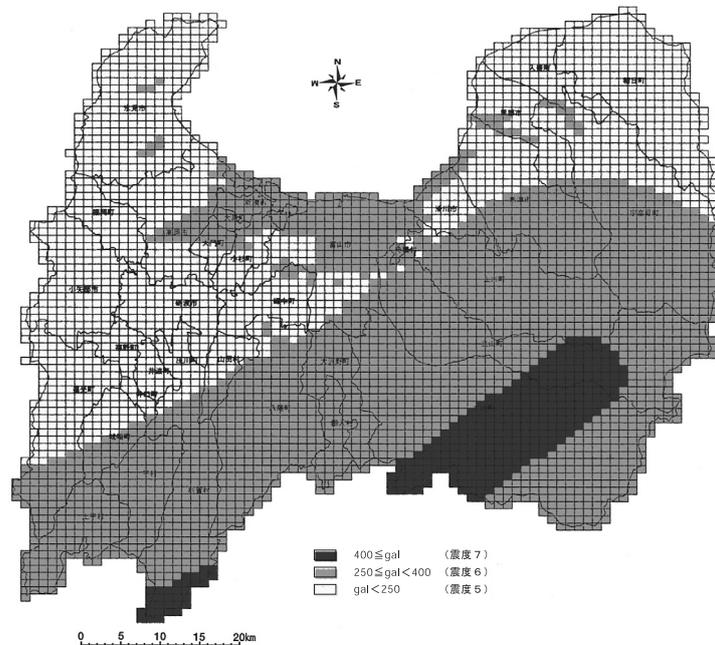


図1-18 跡津川断層の地震による富山県内の予測震度分布

富山県(2006)。予測震度は震度階級が改訂された1996年以前の算出であるため古い震度階級による。断層直下は震度7、断層周辺及び沖積平野で海岸付近の厚い堆積層が広がる地域で震度6の範囲が分布すると推定される。

表 1-1 跡津川断層の地震により富山県で想定される被害（富山県, 2006）

人的被害	死者数	負傷者数	罹災者数			
	865	15,872	58,224			
建物被害	種別	木造建物 (棟)	鉄骨造 (棟)	鉄筋コンク リート造 (棟)	落下物(棟)	ブロック・ 石(件)
	住宅家屋	40,641	3,741	402	6,977	5,692
	非住宅家屋	103,451	8,923	1,019		14,975
火災※	住宅家屋 (棟)	非住宅家 屋(棟)				
	1,491	3,794				
上水道	被害箇所	被害率 (箇所/km)				
	3,483	0.5				
下水道	被害箇所	被害率 (箇所/km)				
	912	0.33				
都市ガス 施設	被害箇所	被害率 (箇所/km)				
	0	0				
電力施設 (電柱)	被害箇所	被害率 (%)				
	910	0.94				

※春季の午前6時、南西の風、風速2m/秒を想定

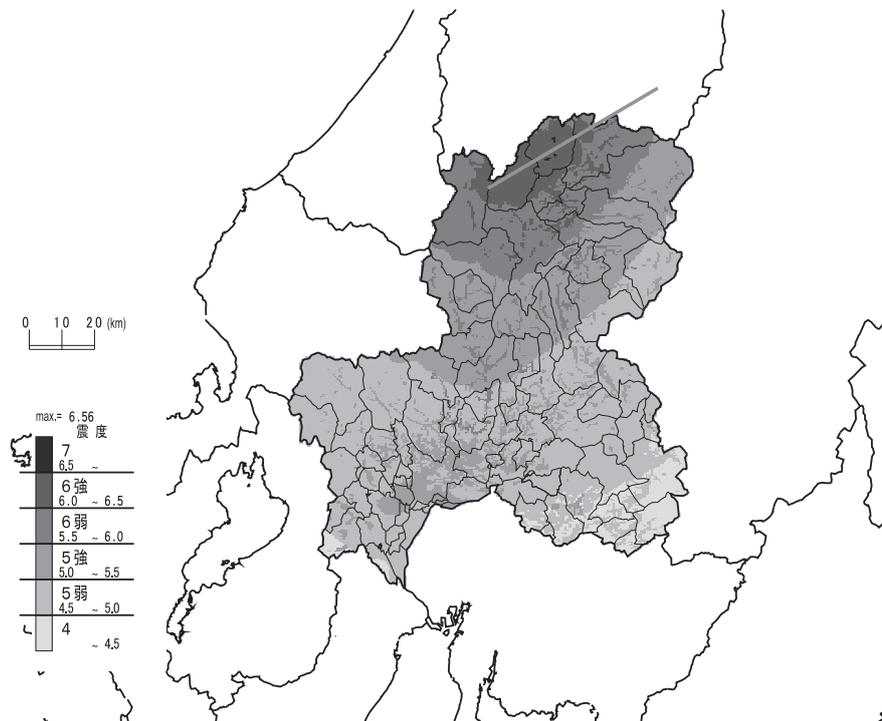


図 1-19 跡津川断層の地震による岐阜県内の予測震度分布

岐阜県(2004)。岐阜大学地震工学研究室から提供していただいた。岐阜県は独自に、予測震度分布のメッシュ間隔を500mとし、さらに県内のボーリングデータ等から整理された49の地盤モデルをあてはめて詳細に震度分布を予測している。

表 1-2 跡津川断層の地震により岐阜県で想定される被害 (岐阜県, 2004)

人的被害※	時間帯	死者数	重傷者	軽傷者	要救出者数	避難者数
	午前3時	853	1,256	24,570	2,123	63,550
	午後6時	741	1,028	19,995	1,574	

※冬期の平日を設定

建物被害	木造建物(棟)		非木造建物(棟)	
	全壊	半壊	全壊	半壊
	18,764	31,266	283	692

火災※	時間帯	全出火件数	炎上出火件数	焼失棟数
	午前3時	0	0	0
	午後6時	59	40	101

※冬季の平日を設定

上水道	被害箇所	被害率 (箇所/km)	断水人口	復旧日数
	911	0.082	187,712	2週間~ 4週間程度

下水道	流下機能支 障延長(km)	被害率 (箇所/km)	機能支障 人口	復旧日数
	48	0.7	8,298	数日~ 1週間程度

都市ガス 施設	機能支障 人口	復旧日数
	16,112	約1ヶ月

電力 施設	機能支障 人口	復旧時間
	704,390	50時間